に

なる学校はますます増えていくこと なると思います。それら校舎を

の日本は少子化が進み、廃校に

学校建築に思うこと



上げていますが、こうして改めて見 今回は愛知県にある古い学校を取

村創設の功労者の建築家谷口吉郎と 化学教室や武術道場については、明治 なって気がついてももう遅い。 ても気がつかなかっ かった。逆にいえば、壊されてしまっ 明治村に残る第四高等学校 たのです。あとに の物

度残っ

てい

るの

かもわかって

い な

ら

どん取り壊されていった建物だった 和30年代後半から40年にかけて、どん

か移築されていますが、それらは昭 博物館明治村にも学校建築は

からです。当時は、古い建物がどの程

ね(笑) また田峯小学校は、地域の文化と合わ 良く残してく 本館も今でもきれ せてすごい学校だと思います。滝学園 面白いですし、雰囲気もとても良い。 てみると、どれも良い建物ば 旧多米 小学校は建てられた時期も かりです

ます。 れて いると感心 いですし、本当に て b

育勅語を読み上げ、その後で1時間 堂で校長が奉安室から取り出した教 校外と遮断していました。戦前は祝日 は講堂と唱歌室、屋外プー なかった(笑) 配られるのです 物という菊の御紋の入ったお菓子 多く、とはいえ休みではなくて、講 校舎はコの字型で配置され、その一 い講話をします。それが終わると が、あまり美味 ル を設け し 辺 お < T

> とって拠り所となっている思 て、その核となるのは、地元の人々に

出深

学び舎なのだろうと思います。

飯田 喜四郎

1924年東京生まれ。名古 屋大学名誉教授。東京大学 在学中にフランスへ留学。 また博物館明治村の館長を 長年務めた。

ことも大きかったと思います。彼らに っては思い出の学び舎だったわけで <u>鉄</u> から、いっそう熱が入っていました。 の 副社長土川元夫の母校だっ

た。 私は、関東大震災以降の昭和7年 た。片廊下型のプランや教室の 小学校に通ったため、鉄筋コン ル は木造校舎を踏襲したもの 造3階建ての校舎で過ごし で ス ま ク

業の展開を望む地方行政にとっても、 ざす大学などにとっても、また文化事 携をとることは、地域で文化活動をめ 見せました。 で、社会教育などの場として広が に呼応して地元の大学が関わること らの活動が行政を巻き込み、その動き 舎の再利用を熱心な地元の住民が始 早くからその問題に取り組 地元に密着したコミュニティと連 た。というより いうのが正しい 大事な核になります。そ も、廃校に で し 6 なった校 よう。 んできま ij

に再利用するのか。愛知県では岡崎

め

明治村の 学校建築たち

【学校建築の宝庫】

博物館明治村は、古い学校建築の宝庫です。

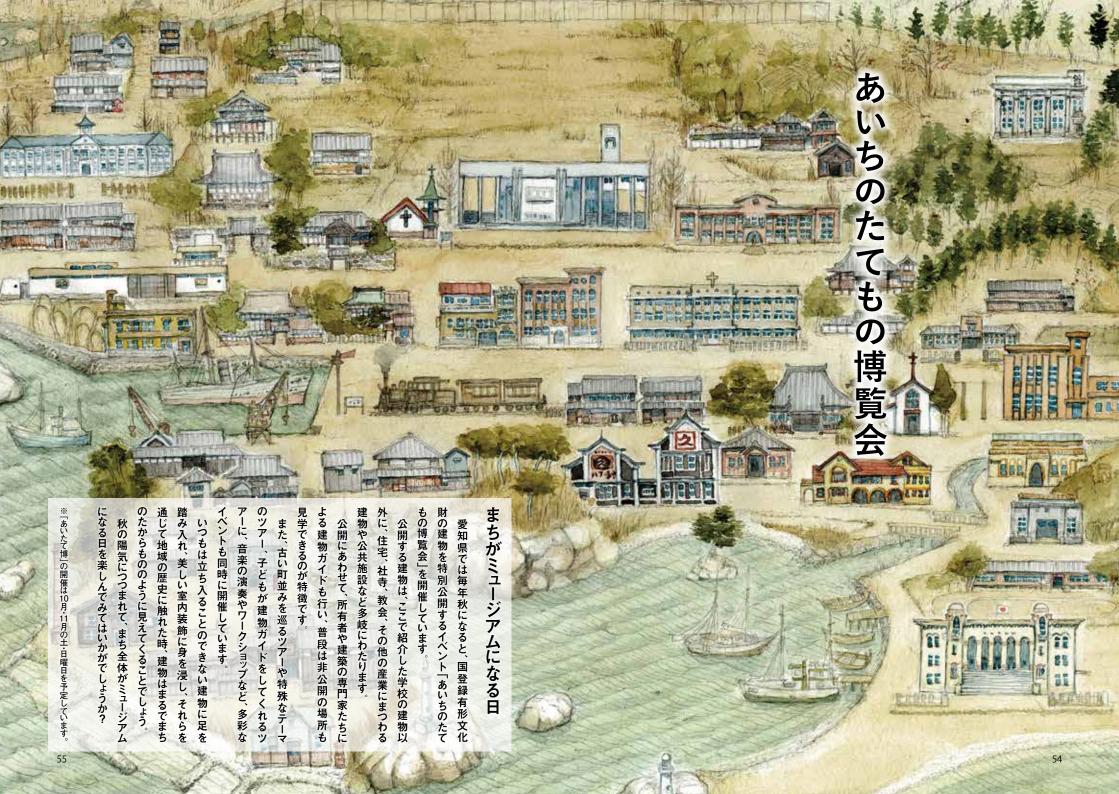
まず入り口で待ち構えてくれるのが、名古屋市瑞穂区にあった第八高等学校 のレンガの門柱です。赤いレンガと花崗岩の立ち姿が、来館者を一気に明治の 世界に連れて行ってくれます。

昭和40年に開館した明治村は、高度経済成長期に失われていく建物を移築・ 保存する目的で設立された野外博物館です。その多くが取り壊される寸前の もので、また当時はあまり価値が認められていなかった市井の建物を保存した ことも特徴です。本書で取り上げている学校建築はまさにそんな建物で、明治村 には同様の校舎がいくつも移築されています。

数ある中からひとつだけ紹介すると、第四高等学校物理化学教室がおすすめ です。設計したのは文部省技師の山口半六と久留正道で、久留は「学校建築 図説明および設計大要」をまとめた人物です。この建物もそれに合致し、また モダンな階段教室も見どころです。

山口も久留も西洋建築を深く学び、その理論や研究に基づいて「大要」を 著しました。物理化学教室のシンプルながらも美しい姿を見ると、彼らが創り 上げた学校建築の礎がどれだけのクオリティを持っていたのか、思いを馳せずに はいられません。





■国登録有形文化財とは

平成8年の文化財保護法改正により創設さ れた文化財登録制度に基づき、文化財登録原 簿に登録された有形文化財のことです。

それまでは文化財指定制度に基づく重要文化 財(その中でも、世界文化の見地から価値の高 いものが国宝)が指定され、貴重な建物が手厚 く保護されてきましたが、その数は多くなく、急激 な都市化の進展などにより、近代の建造物がそ の建築史的・文化的意義や価値を十分に認識 されないまま取り壊される例が相次ぎました。そ れを決定づけたのが平成7年)の阪神・淡路大 震災です。震災による被害を受けた多くの未指 定文化財が取り壊されてしまいました。

その反省にたち、国レベルで重要なものを厳 選する重要文化財指定制度を補い、より緩やか な規制のもとで、幅広く保護していく制度として 文化財登録制度が創設されたのです。

登録の基準は、原則として建設後50年を経

渦したもののうち、

- ①国土の歴史的景観に寄与しているもの
- ②造形の規範となっているもの
- ③再現することが容易でないもの

のいずれかに該当するものとなっています。

所有者の同意のもとに登録されるもので、登 録されると相続税等の減免や保存・活用に必 要な修理等の設計監理費などに対する補助を 受けることができます。重要文化財と比べると補 助は大きくはありませんが、厳しい規制がある指 定文化財とは異なり、外観を大きく変えなければ 改修や改装も認められており、有効に活用して いくことが期待されています。

なお、令和2年3月1日 現在、全国で12.443件 が登録され、愛知県は 519件(全国5位)となっ ています。



登録文化財のプレート

あいちのたてもの まなびや編

2020年3月26日発行

発 行 者 愛知県国登録有形文化財建造物所有者の会 http://www.aichi-tobunkai.org/ 会長 小栗 宏次

【事務局】名古屋市中区錦三丁目6番 15 号先

名古屋テレビ塔株式会社内 info@aichi-tobunkai.org

編集・企画 株式会社 都市研究所スペーシア

筆 はじめに 飯田 喜四郎

村瀬 良太

写 真 撮 影 かとうなをこ/水野晶彦/熊本仁志/竹内久生/伊藤朋香/みなちょむ

写 真 提 供 博物館明治村、愛知大学

制作協力 筧清澄

題 字 水谷 月菜

イラスト・構成 村瀬 良太

デ ザ イ ン 墨 昌宏 (有限会社エピスワード)

■愛知県国登録有形文化財建造物所有者の会とは

愛知県内の国登録有形文化財の所有者を 中心とする会(略称:愛知登文会)で、登録文 化財の保存・活用を推進することを目的に、平 成23年6月に設立されました。

平成23年度より文化庁文化芸術振興費補 助金を受けて活動を行っており、本書の作成 もその一つです。この冊子を通じて、愛知県 内にある様々な登録文化財の魅力を知ってい ただき、歴史的建造物の保存・活用にご理解・ ご支援いただければ幸いです。

愛知登文会では、このような活動を進める にあたり、全国の登録文化財の所有者が連携 して取り組んでいくことが重要だと考え、全国 の所有者の会のネットワークづくりにも取り組 んできました。令和元年6月には、全国で活動 する9つ(秋田、群馬、東京、神奈川、愛知、三 重、大阪、京都、和歌山)の所有者の会が集い 交流する「全国登文会フェスタ |を愛知で開

催し、この機会にあわせて、登録有形文化財 全国所有者の会(全国登文会)が設立されま した。全国登文会では、所有者間の連携、交 流、情報交換を通じて登録文化財の保存・活 用を進めることを目的としています。

全国の文化財所有者の皆様や関係の皆様 と連携しつつ、この愛知から登録文化財の保 存・活用の輪を大きく広げていくことができれ ばと考えています。

愛知登文会 会長 小栗宏次



全国登文会設立総会の様子(小栗家住宅)